



A 欧 文

A-a

1. M Fujimoto, N Matsumoto, T Tsujita, H Tomita, S Kondo, N Miyake, M Nakano, N Niikawa: Characterization of the Promoter Region, First Ten Exons and Nine Intron-exon Boundaries of the DNA-dependent Protein Kinase Catalytic Subunit Gene, DNA-PKcs(XRCC 7), DNA Research, 4, p151-154 (1997)
2. N Matsumoto, H Ohashi, R Kato, M Fujimoto, T Tsujita, T Sasaki, M Nakano, O Miyoshi, Y Fukushima, N Niikawa: Molecular mapping of a translocation breakpoint at 14q 13 in a patient with mirror-image polydactyly of hands and feet, Hum Genet99, p450-453 (1997) *
3. K Hatada, Y Okazaki, J Uchino, K Yoshitake, K Takada, Y Nakane: The Development of a Self-rating Questionnaire for Screening Dementia, The Acta Medica Nagasakiensia, 42, p34-38, (1997)
4. K Takada, K Yoshitake, T Otsuka, T Sakyo, K Hatada, M Sata, Y Imamura, Y Nakane:Nagasaki Schizophrenia Study: Outcome of a 15-year Follow-up of an Incident Cohort, The Acta Medica Nagasakiensia, 42, p39-44, (1997) ○
5. H Minami, T Nakahara, A Miyahara, Y Nakane: Prediction of drug responses in schizophrenia: A method using a test dose of chlorpromazine, Psychiatry and Clinical Neurosciences, 51, p217-222, (1997) *
6. N Matsumoto, E Soeda, H Ohashi, M Fujimoto, R Kato, T Tsujita, H Tomita, S Kondo, Y Fukushima, N Niikawa: A1. 2-megabase BAC/PAC contig spanning the 14q13 breakpoint of t(2; 14) in a mirror-image polydactyly patient, Genomics, 45, p11-16, (1997) *

A-b

1. Y Nakane: Psychosocial Aspects of Schizophrenia, Special Lectures For Plenary Sessions, The Regional Meeting of World Psychiatric Association Beijing, China October7-10, 1997, p106-126, (1997)

A-c

1. J. Li, H Sugasaki, Y.-H. Yang, M Mine, Y.-R. Zha, M Kishikawa, Q.-f. Sun, Y Nakane, J.-M. Zou, M Tomonaga, Z.-F. Tao, L.-X. Wei: A survey of senile dementia in the high background radiation areas in Yangjiang, Guangdong Province, China, High Levels of Natural Radiation and Health Effects, Excerpta Medica, p283-291, (1997)
2. T Tsujimura, T Asou, M Hayashida, A Himeno, H Minami, Y Okazaki, Y Nakane: Platelet serotonin2 receptor binding in affective disorders, Psychiat. and Clinical Neurosci., 51(1)S29, (1997) *
3. T Tsujimura, Y Tomimatsu, T Asou, S Yoshimoto, K Maemura, S Nakashima, Y Okazaki, Y Nakane: The effects of prenatal stress on locomotor activities in Wistar male and female rats. Psychiat. and Clinical Neurosci., 51(1)S97, (1997) *

B 邦 文

B-a

1. 岡崎祐士：精神分裂病の高危険児研究の概観と発症予防の実践への示唆、日本社会精神医学会雑誌、5 (2)、p 228-237 (1997)
2. 中嶋照夫、工藤義雄、斎藤正己、井川玄朗、堺俊明、西村健、川北幸男、花田雅憲、東雄司、挾間秀文、大月三郎、渡辺昌祐、山脇成人、細川清、池田久男、田代信維、西園昌久、中根允文：選択的セロニン再取り込み阻害薬Fluvoxamine maleate (SME 3110)の強迫性障害に対する前期臨床第II相試験、臨床医薬、12(3)、p 385-407、(1996)
3. 原田誠一、吉川武彦、岡崎祐士、亀山知道：幻聴に対する認知療法的接近法（第1報）、患者・家族向けの幻聴の治療のためのパンフレットの作成、精神医学、39(4)、p 363-370、(1997)
4. 原田誠一、岡崎祐士、吉川武彦、亀山知道：幻聴に対する認知療法的接近法（第2報）、幻聴の治療のためのパンフレットの利用法とアンケート調査の結果、精神医学、39(5)、p 529-537、(1997)
5. 岡崎祐士：精神分裂病の予防対策は可能か、脳と精神の医学、8(2)、p 151-162、(1997)

6. 原田誠一、峯田聖、岡崎祐士：精神分裂病の環境因はどこまで分かったか、臨床精神医学、27(5)、p 489-501、(1997)
7. 中嶋聰、吉本静志、麻生忠史、辻村徹、富松眞之、前村謙司、岡崎祐士、中根允文：妊娠期ストレスラットが仔ラットの行動に及ぼす影響、日本神経精神薬理学雑誌、17：283、(1997)
8. 藤丸浩輔、岡崎祐士、中根允文：小児期のストレス体験がもたらす将来への影響－精神分裂病と感情障害の小児期ストレス、ストレス科学、12(3)、p 120-125、(1997)
9. 伊東勉、高橋克朗、太田保之：インターフェロン治療によって精神症状を繰り返し発現した覚醒剤使用経験者の1症例、精神医学、医学書院、39(12)、p 1325-1327、(1997)
10. 小田孝、黒滝直弘、秋月誠一、今村芳博、藤丸浩輔、川瀬健一郎：新来患者からみた離島の総合病院精神科、九州神経精神医学、43(3.4)、p 209-220、(1997)

B-b

1. 中根允文、今村芳博、吉武和康、本田純久、三根真理子、畠田けい子、朝長万左男、田川眞須子：原爆被ばく者の精神健康状態、放医研環境セミナーシリーズNo.24 放射線被ばくの社会的評価—チェルノブイリ事故から学ぶ、p 42-52、(1997)
2. 岡崎祐士：精神分裂病ハイリスク児、精神医学、39(4)、p 346-362 (1997)
3. 岡崎祐士：ハイリスク研究と双生児研究の示唆、精神科治療学、12(6)、p 609-616 (1997)
4. 畠田けい子、岡崎祐士、中根允文：精神分裂病の発生率研究、精神医学レビューNo.24 精神障害の疫学、p 16-21 (1997)
5. 畠田けい子、中根允文：ひきこもりの精神病理、臨床精神医学、26(9)、p 1245-1247 (1997)
7. 菅崎弘之：痴呆性老人の在宅ケアについて、月刊総合ケア、7(2)、p 32-35 (1997)
8. 佐田美佐子、中根允文：精神症状評価尺度にはどのようなものがあるか、こころの臨床ア・ラ・カルテ、星和書店、16(4)、p 367-373 (1997)
9. 高田浩一、中根允文：精神分裂病の操作的診断基準と閾値症状、季刊 精神科診断学、8(4)、p 333-345、(1997)
10. 中根允文、吉武和康：WHOの疫学調査、心療内科、1(4)、p 332-335、(1997)
11. 中根允文：シリーズ「最近の癌の話題」病名告知、インフォームドコンセント(IC)、および生活の質(QOL)、長崎県医師会報 平成9年12月、p 49-52、(1997)
12. 中根允文、浜田芳人：小精神病（マイナー・サイキャトリック・ディスオーダー）とは、毎日ライフ、2、p 12-14、(1997)
13. 吉武和康、中根允文：総合病院内科外来でみられる精神的問題、毎日ライフ、2、p 15-18、(1997)
14. 辻村徹：精神保健（うつ病と痴呆）、長崎市婦人健康大学（長崎市、長崎市健康づくり協議会）、p 113-126、(1997)
15. 岡崎祐士：精神疾患の分類および診断基準、精神医学、p 209-220、(1997)
16. 辻田高宏、新川詔夫：遺伝子診断：基礎から臨床へ 隣接遺伝子症候群、最新医学、52、p 2193-2199、(1997)
17. 中村仁：対談 幼少期の心の荒廃を防ぐ為に…、虹10月号、p 16-28、(1997)
18. 田崎美弥子、中根允文：Medical Outcomes Trustの調査票レビュー基準の紹介—Quality of Life調査票開発のために—、精神科診断学、8(4)、p 413-419、(1997)
19. 岩館敏晴、牛島定信、大野裕、岡上和雄、金吉晴、堺俊明、薩美由貴、佐藤光源、染矢俊幸、高木俊介、中根允文、森山公夫：Schizophrenie の訳語の歴史、精神神経学雑誌、98(4)、p 239-244、(1997)
20. 中根裕子、中根允文：明らかな遺伝性障害としての自閉症—英国の双生児研究における知見から一、自閉症と発達障害研究の進歩、p 173-192、(1997)
21. 下村洋、中根允文：自閉症、感情障害および社会恐怖、自閉症と発達障害研究の進歩、p 193-207、(1997)
22. 浜田旭、中根允文：自閉症の脳の大きさに関するMRIの研究、自閉症と発達障害の進歩、p 208-215、(1997)
23. 岡崎祐士：「分裂病の起源と発達、認知訓練や家族療法、および偏見の払拭」の概要、精神分裂病研究の進歩、6(1)、42、(1997)
24. 今村明：一卵性双生児不一致例のサブグループに認められた精神分裂病の胎児期起源、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 43-44、(1997)
25. 藤丸浩輔：分裂病患者、双極性障害患者とその同胞におけるMinor Physical Anomalies、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 45-46、(1997)
26. 浜田旭：精神分裂病発症に先行する神経運動機能異常、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 47-48、(1997)
27. 前村謙司：精神分裂病の神経病理の発達的に緩和された表出、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 49-52、(1997)
28. 岡崎祐士：精神分裂病患者の血縁親族における人格障害、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 53、(1997)
29. 岡崎祐士：精神分裂病と性染色体異常、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 54、(1997)
30. 林田雅希：アシュケナジ分裂病家系の医学的状態、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 55-56、(1997)
31. 高田浩一：精神分裂病の経過分類、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 57、(1997)
32. 福迫貴弘：分裂病患者の情報処理障害に対する注意訓練の効果、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 58、(1997)
33. 塚原美佐子：心理教育的家族マネジメント療法の適用可能性、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 59、(1997)

34. 畑田けい子：慢性分裂病患者を介護する家族のニーズ、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 60、(1997)
35. 岡崎祐士：精神分裂病への偏見の払拭にはどのような情報がベストか、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 61-62、(1997)
36. 中根允文：「児童期発症の精神分裂病」の概要、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 64-65、(1997)
37. 松尾勝久：児童期発症および成人期発症の精神分裂病に関する情報処理欠陥、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 81-82、(1997)
38. 中口敬子：児童期発症の精神分裂病—国立精神保健研究所(National Institute of Mental Health, NIMH)における研究の進歩、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 83-86、(1997)
39. 松本俊二：精神分裂病の子供：診断、症候論、および薬物療法、精神分裂病研究の進歩、6(1)、p 87-89、(1997)
40. 野口栄二：小児期発症分裂病：概念の変遷と最近の研究、精神分裂病研究の進歩、星和書店、6(1)、p 90-92、(1997)
41. 平井寿昭：精神分裂病スペクトラム障害における妄想：診断上の問題点、精神分裂病研究の進歩、6(1)、P 93-96、(1997)
42. 園田裕香：ダニとダニ媒介脳炎に対する精神分裂病の地理的相互関係、精神分裂病研究の進歩、6(1)、P 97-98、(1997)

B-c

1. 中根允文、吉武和康：精神分裂病の予後、臨床精神医学講座、3、p 350-385 (1997)
2. 畑田けい子、岡崎祐士：74歳後、うつ状態が続いているマタニティープルーブの評価と対策は、(武田佳彦 監修)、医学書院、東京、p 222-224 (1997)
3. 中根允文、菅崎弘之：7.3 痘学的諸問題、感情障害—基礎と臨床一、朝倉書店、東京、p 466-474 (1997)
4. 中根允文：精神分裂病、今日の診断指針、医学書院、東京、p 1289-1291 (1997)
5. 畑田けい子、岡崎祐士：分裂病、シーハン症候群とマタニティープルーブの鑑別ポイントは、産科ベッドサイドのノウハウ こんなときどうする 100例 監修武田佳彦、医学書院、東京、p 225-227、(1997)
6. 中根允文、高田浩一：ICD-10とDSM-IV、KEY WORD 1997-'98 精神、松下正明、倉知正佳、樋口輝彦 編、先端医学社、東京、p 12-13 (1997)
7. 高木隆郎、M.ラター、E.ショブラー、中根允文、久保紘章、奥野宏二、門眞一郎、石坂好樹 編：自閉症と発達障害研究の進歩、日本文化科学社、東京 (1997)
8. 中根允文、融道男 編集：精神分裂病研究の進歩、星和書店、東京、(1997)
9. 田崎美弥子、中根允文 監修：WHOQOL 手引き(世界保健機関・精神保健と薬物乱用予防部 編)、金子書房、東京、(1997)
10. 中根允文：主な精神障害に関する基礎知識、障害者福祉論III(精神保健、精神障害者福祉)、全国社会福祉協議会、東京、p 64-80、(1997)

B-d

1. 富松真之、吉本静志、麻生忠史、辻村徹、前村謙司、中島聰、岡崎祐士、中根允文：妊娠期ストレスと感情病脆弱性との関連について—Wistar系ラット、WKYラットの比較—、精神薬療基金研究年報、第28集、p 125-132 (1997)
2. 中根允文、朝長万佐男、三根真理子、高田浩一、本田純久：50年前に原爆被爆した者における精神障害の有病率—地域調査のパイロット研究として—、平成7年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書、(1997)
3. 岡崎祐士、辻村徹、林田雅希、加藤勝彦、鍵本美喜子、小森正満、長崎市中央・北保健センター保健婦一同：独り住まいの高齢者の妄想状態への治療的アプローチの開発、安田生命社会事業団研究助成論文集、32、p 160-165、(1996)

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
1997	6	1	3	0	10	3	10	42	10	3	65	75

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
1997	2	3	1	6	6	2	2	10	16

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	$\frac{\text{欧文論文総数}}{\text{(論文総数)}}$	教官生産係数 (欧文論文)	$\frac{\text{S C I掲載論文}}{\text{欧文論文総数}}$	教官生産係数 (S C I掲載論文)
1997	0.133	1.111	0.300	0.333

Impact factor値一覧

	Impact factor	1教官当たりImpact factor	論文当たりImpact factor
1997	6.259	0.695	2.086